

最終成果報告書

報告者氏名：木邑佳織

所属：京都市立桃陽総合支援学校

記録日：2019年2月26日

【対象生徒の情報】

○中学部3年 分教室 女児15歳

○障害と困難の内容

□病弱

桃陽総合支援学校は、京都市にある病弱の特別支援学校である。学校隣接の京都市桃陽病院に入院している小中学生が通う本校と京都市内の5つの病院（京都大学医学部附属病院・京都府立医科大学附属病院・国立病院機構京都医療センター・京都第二赤十字病院・京都市立病院）内にある分教室と5つの病院以外に入院している小中学生のための訪問教育がある。

・本生徒は、原籍校での中学校生活は順調に過ごしていたが、6月初旬、病気が分かり、突然の入院治療となった。

・入院してからは、治療や体の不調により分教室への登校が難しく、病室での個別の授業が多かった。桃陽のベッドサイド学習は、1日2時間で、学習の機会が少ない。

・病室から出られない時期が多く、交流する人が限られている。特に、同年代の子ども達との交流が少ない。

・突然の入院で日常生活から切り離され、これまでの学校生活などの情報も少なくなり、学習や復学・進学にむけた不安等がつのっている。

【当初のねらい（計画書の学習目標）と活動による方向性の確認状況】

(1) 体調に合わせて継続的な学習を行う。

(2) 桃陽の本校や他の分教室と交流をすることで、同年代の生徒等とコミュニケーションをとり、学習や治療への意欲を向上する。

(3) 復学や受験に向けて、原籍校と連携し、スムーズな学校生活への移行ができるようにする。

・実施期間2018年6月～ 継続中

・実施者：①木邑佳織 ②湯本信洋 ③大杉仁彦

・実施者と対象児の関係

① 当校の研究主任 学習サポートなど支援のため、月3～4回、病室に訪問して関わっている。

② 本生徒の担任

③ 当校支援部 育支援センター教員

【活動内容と対象生徒の変化】

<対象生徒の事前の状況>

- ・原籍校での学校生活は順調に過ごしていた。課外活動や生徒会活動に対しても積極的であり、交友関係も良好で、人望も厚い。
- ・成績は大変優秀である。
- ・中学3年生なので、高校入試をひかえているが、志望校選択前に入院したため、高校の選択はまだできてなかった。また、体調や治療のことがあるので、進路や受験について迷っていた。

【学習形態・状況に関すること】

- ・入院後は、桃陽に入学し、体調に合わせて、分教室の授業を受けている。
- ・治療内容・免疫力の低下、または体調により病室から出られないが、学習できる体調のときがある。その際、桃陽のベッドサイド学習を1日2時間受けている。
- ・現在、同じ病院の分教室には中学3年生は随時2～3名在籍している。個々の病状により、全員がそろっての分教室での授業はほとんどできていない。
- ・本生徒も、治療のサイクルや体調が整わないなどで、分教室での授業は受けることができていない。

【コミュニケーションに関すること】

- ・治療や体調により、病室から出ることができない時期が多いので、同年代の生徒とのコミュニケーションの場が少なくなっている。

<活動の具体的内容>

（1）継続的な学習に関すること～授業動画配信サイトを活用した自主学習の取組～

①授業動画配信サイト「palstep」の活用

病室から出られない時期が続いていたことや夏休みに向けて自主学習ができたらと思い、7月初旬に「palstep」を紹介した。

「palstep」は、株式会社エデュアスが提供している生徒一人一人の学習レベルに応じて学習を進めることができる小中学生向けのeラーニングシステム。



本生徒は、国語・数学の学習で「palstep」を使用していた。しかし、2日間のみでその後使用していない。

月日	教科	内容
7月3日	数学	式の展開
7月11日	国語	言葉の単位/文節と文節の関係・文の成分/
	数学	式の展開

②授業動画配信サイト「スタディサプリ」の活用

授業動画配信サイト「スタディサプリ」の活用についても説明をした。冬休み前には受験対策講座を紹介した。

スタディサプリは、リクルートマーケティングパートナーズが運営している授業動画配信ソフト。

動画視聴時間や確認テスト完了講義数・問題解答数は右表の通りであった。

*「スタディサプリ」は教育委員会が研究事業の一環でアカウントをとり、桃陽が試験的に使用。

動画視聴時間	3時間11分
確認テスト完了講義数	2講義
問題解答数	10問

<本生徒が学習した内容>

*学習した月日については、問題終了時のみ記録される。

「スタディサプリ」を使った学習内容は、右表の通りであった。5教科にわたって使用していた。

月日	教科	内容
8月15日 他	理科	力のつりあい/仕事と仕事率
	英語	東京書籍中3 Unit1
	数学	多項式の計算/文型
	社会	明治時代/第1次世界大戦
	国語	漢文

9月ごろ、①②のどちらの動画配信サイトによる学習も、体調や治療の影響もあるだろうが、動画視聴の記録や学習内容の量から、継続的な学習ツールには至っていなかった。

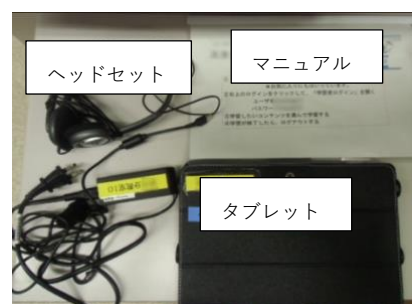
12月の冬休み前、再度、「スタディサプリ」の受験対策講座を紹介したが、やはり体調の悪さが続きできなかった。

<スタディサプリを使った学習内容>

【ベッドサイドセット】の活用

当校では、病室でも京都市のネットワークがつながるため、1人で機器操作可能な児童生徒向けに、病室でもつないで一緒にすぐに学習できるように、ベッドサイドセットの貸し出しを行っている。

タブレット・ヘッドセット・テレビ会議のマニュアルをセットしている。その際、授業配信動画のログインIDを書いたマニュアルをセットして渡している。



～生徒との日常の連絡方法について～

普段本校に勤務している教員との連絡がスムーズにできるように考え、本生徒に貸しているiPadに「By Talk for school」を入れて使い方を紹介した。

基本的な連絡のやりとりは分教室の担任が担っているため、日常の連絡で使うことはなかった。主に原籍校とのつなぎの日の直前の体調確認や担任が授業中で連絡できない時に使用した。



アプリ「By Talk
for School」

～安心・安全な環境で使える
学校専用のクローズドなSNS～

2) 多様な集団づくりに関すること

分教室同士とベッドサイドをつないでの学習（授業配信）

～病室から出られないが、学習できる体調の時の取組～

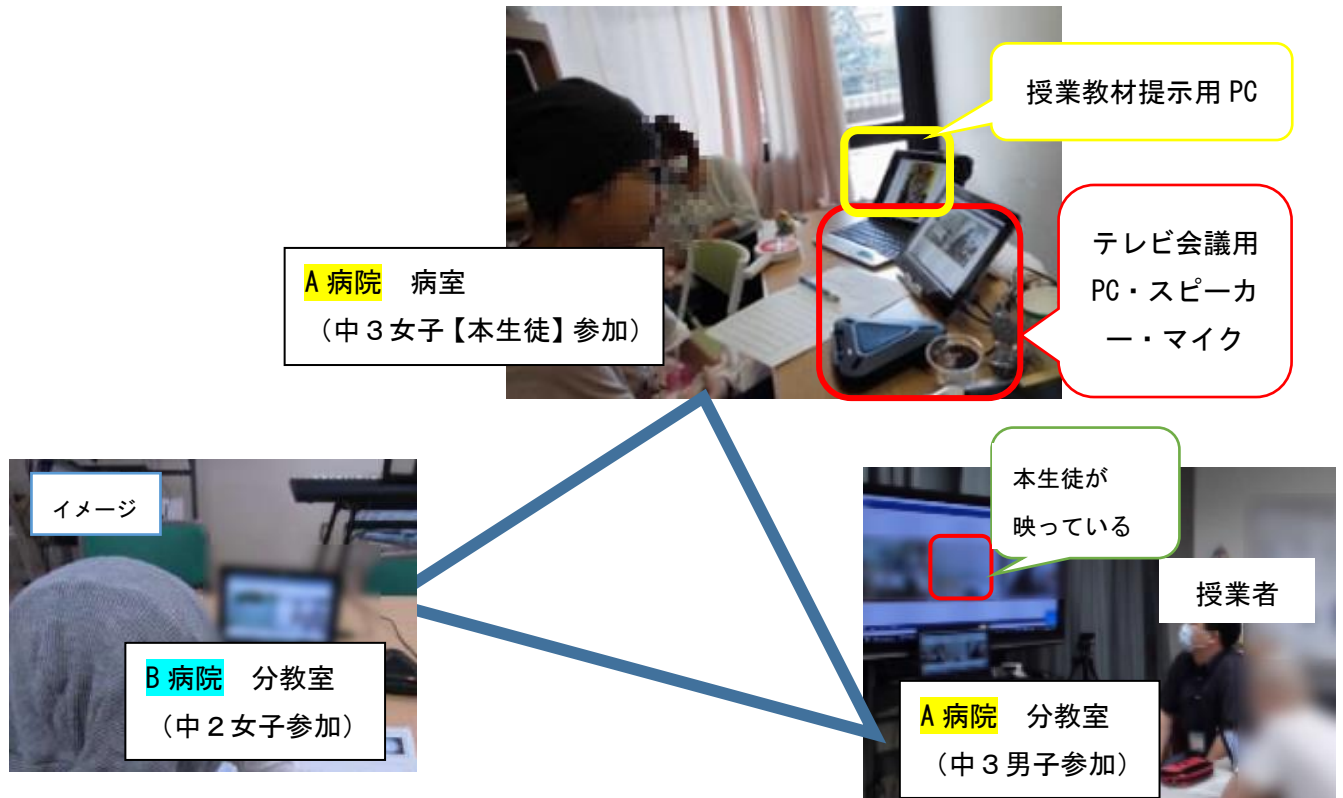
本生徒は、治療や体調により、病室から出られない時期が続き、分教室への登校もできていなかった。ただ、病室から出られないが、学習はできる体調であったため、桃陽の教員が病室へ行き、1日1～2時間の学習を行っている。そのため、教員と話す機会はあったが、同年代の子どもたちと会う機会はなかった。そこで、桃陽が今まで行ってきたテレビ会議システムを使って、病室と分教室をつなぎ、集団での授業を行った。



NTTが開発したテレビ会議システム。光京都ネットで京都市の小中学校などで活用可能。当校では、「テレビ会議」と呼んで、日常的に使っている。これまでの研究事業などで分教室だけでなく一部病室でも使えるようになっている。京都市では、セキュリティの関係で、このアプリのみ許可されている。

○7月中旬、本生徒は、分教室の美術の授業配信を病室で受けた。美術鑑賞の授業で、数枚の絵から好きな1枚を選び、3つのヒントを考えて発表し、絵を当てあうという学習であった。学年を超えた集団での授業も可能だろうと考え、他の分教室の中学2年生（当時1名のみ在籍）も参加して、生徒3名で行った。普段、人数が少ない分教室では、お互い意見交換しながら学習できる貴重な機会となった。次の図は分教室と病室をつないだ学習を表したものである。

<分教室とベッドサイドをつないだ学習>



(3) 原籍校との連携に関すること

【原籍校とのつなぎ支援にむけて】

入院当初から、原籍校と本人とのつなぎ支援について話しあってきた。初めに、桃陽の校長から原籍校の校長へ連絡を取り、学年主任・担任と話をする機会をもった。7月初旬、原籍校へ訪問してつなぎ支援の話をした。その際には、当校の支援部が担っている「育（はぐくみ）支援センター桃陽」の教員2名といっしょに訪問した。

原籍校は京都市内の中学校で、お互いの学校のことは知っている。また、本生徒の学年主任・担任の先生が2年前に当校の訪問教育を受けた生徒の担当でもあって、ICTを活用してつないだ経験があったため、つなぎ支援についての話はスムーズであった。

桃陽からiPadとルーターを貸し出して、テレビ会議システムのiPad版を使いこなせるようにした。その際に、つなぎかたのマニュアルも渡してスムーズに繋げるようにした。訪問した日は、試しに桃陽本校にいる教員とつないで話をした。



①原籍校の担任の先生とのつながり

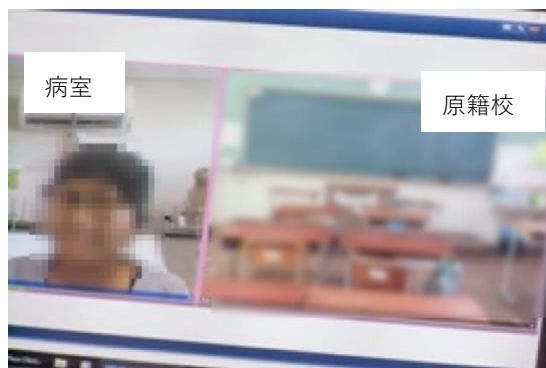
本生徒・保護者の意思の確認をすると、「(原籍校の)担任の先生と話をしたい。」とのことだったので、まずは、原籍校の担任の先生と話す機会をもった。原籍校の先生は、病室に訪問してくださっても、病室から出られない本生徒には会うことができなかったため、本人も保護者も大変楽しみにしていた。

つながりが始まり、先生が声をかけてくださると、ふっと緊張が解けて、本生徒は非常に和やかな雰囲気話していた。担任の先生が、職員室から教室までの廊下をiPadをもって歩いていくと、「わあ～学校や。」と歓声をあげていた。本生徒の教室に入り、「〇〇(本生徒の名前)の席やで。」と見せてもらおうと、本生徒はうれしそうにしていた。久しぶりに自分の座席から見る風景をじっと見ていた。

つないでいる途中に、本生徒が担任の先生に、「生徒会のみんなに会いたい。」と、話した。担任の先生と相談すると、翌日が夏休み前の最終日で生徒会の集まりがあるとのことだった。



<原籍校の担任の先生と話している様子>



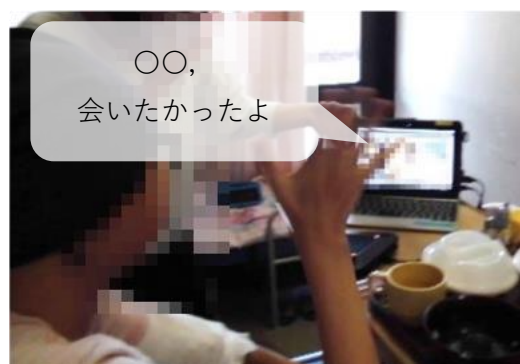
<原籍校の自分の座席から見た風景>

②生徒会のメンバーとのつながり

【夏休み前の生徒会活動にて】

本生徒は、原籍校では生徒会役員として活躍していた。夏休みにある最後の生徒会の活動をつないでもらった。

担任の先生がタブレットを持って生徒会の部屋に行くと「えっ、〇〇。会いたかったよ。」「〇〇がいないとダメやねん。」と、タブレット越しの本生徒に向けて、次から次へと生徒たちが声をかけていた。また、生徒会の悩みを伝えている生徒もいた。本生徒も始終笑顔で、一人ひとりに声をかけていた。時間中ずっと今までになく大笑いする姿もあった。



【生徒会の引き継ぎ式】

10月、生徒会役員は引退であった。生徒会の引継ぎ式は本人も「見たい。」と言っていたが、その週は体調が厳しい日が続いていた。しかし、1時間ほどあった引継ぎ式を最初から最後まで見た。

引継ぎ式の最後は担任の先生がiPadを持って花道を通ってくださった。さらに、花道を通り終わったあと、一人一人が本生徒に声をかけてくれた。一人一人が声をかけていく中で、本生徒を気遣いながら「がんばって」という言葉かけに「ありがとう」と大きな声で返していた。病室ではあったけれど、本生徒なりの生徒会の締めくくりになったのではないかと感じた。



③原籍校からの授業配信

【道德の配信授業】

本生徒は夏休み明けも病室から出られない時期が続いていたり、体調が悪く分教室での授業も欠席したりすることが多かった。本生徒の様子を原籍校の先生に伝え、授業配信について進めてきた。

まず、原籍校の9月の時間割を送ってもらい、配信可能な時間を相談した。原籍校では、9月は文化祭に向けた取組や定期テストがあり、大変忙しい日々であったが、まずは「道德」の授業を1時間、配信してもらうことになった。

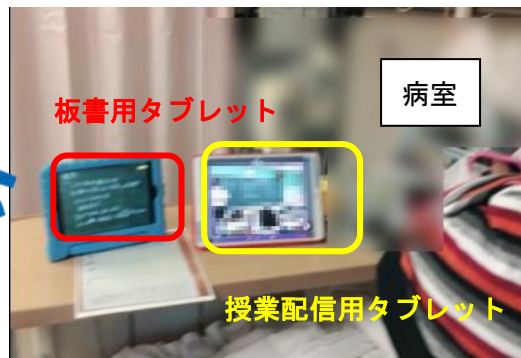
当日を含め授業配信前の数日は、治療内容も厳しくしんどい時期であったので、授業配信はどうかと思っていた。しかし、本生徒は、「授業配信は受けたい。」と強く希望を持っていたため、行った。配信の時には、桃陽の育支援センターの教員2名が原籍校に行き、病室にいる教員とメールでやりとりしながら授業をiPadで映してもらった。

初めは、本生徒の座席あたりから授業配信を行っていたが、板書やパワーポイントの文字が見えにくいので、先生とテレビ・板書が映る位置にカメラをおいてもらい、視聴した。病室に道德の教科書がなかったため、原籍校にいる桃陽の教員から送信してもらい、病室のプリンターで印刷し、本生徒の手元に置いた。また、ワークシートも送ってもらい、授業に参加した。途中、板書の文字が見えにくかったので、板書の写真を送ってもらい、もう1台のiPadに映して板書を見た。体調があまりよくなかったため、授業を受けるというより、担任の先生の話や身振り、それに対するクラスの生徒たちの反応などを視聴し、久しぶりに感じる自分のクラスの雰囲気を楽しんでいる様子だった。担任の先生も時々カメラに向かって話しかけてきてくれて、その度に笑顔があふれていた。

【授業配信の図】



＜原籍校からの配信の様子＞



＜病室から授業配信を見ている様子＞



＜送信してもらった
ワークシート＞



＜病室に置いている
プリンター＞

【文化祭の配信授業】

文化祭の配信も行った。体調が悪かったが、3時間続けて鑑賞した。前回板書文字が見えにくかったことを受けて、文化祭の配信の時はリモートカメラを設置した。全体の中で、自分の見たいところをフォーカスしたり、左右に自由に動かしたり病室から遠隔で操作ができる。本生徒も授業後の感想で「大変見やすかった」と言っていた。

音声は、テレビ会議の方が遅延が少ないことと、休憩時間に友達がカメラに寄ってきて話す時に本生徒の顔を見て話せることがあるため、テレビ会議用のカメラも併用で使った。

【リモートカメラ】

見たいところを指で
フォーカスしたり、
左右に動かしたり
できる



【授業配信の図（リモートカメラ使用）】



原籍校とつないだ時間は以下の表に示した通りである。

	日時	内容
1	7月19日 放課後	担任の先生とつなぎ
2	7月20日 放課後	生徒会とつなぎ
3	9月20日 5校時	道徳（担任の先生）
4	9月27日 2～4校時	文化祭
5	10月18日 5・6校時	英語・数学の出前授業（高校の先生）
6	11月 7日 放課後	生徒会引継ぎ式
7	11月 8日 5校時	道徳（担任の先生）
8	12月20日 5校時	学年集会

入院当初は、原籍校からの授業配信は担任の先生が受け持つ数学も予定していた。しかし、授業の進度の違いが出てきたため、本生徒から「いいです。」と言ってきた。そのため、道徳や学年集会などのつなぎを中心に行った。

④原籍校とのカンファレンスの実施～生徒の進路にむけて～

本生徒は中学3年生ということで、進路について考える時期であった。しかし、日々続く厳しい治療から進路について大変悩んでいた。そこで、主治医を含めたカンファレンスを実施しようということになった。

ただ、主治医・原籍校の先生が空いている時間の調整はとても難しい。この時も主治医の空いている時間は、限られており、原籍校の先生もまさに進路懇談の真っ最中であつた。原籍校に、主治医の空き時間を伝え、と、「テレビ会議なら30分空いているからできます。」と返事をいただき、カンファレンスの実施に至った。

主治医からの情報をお互いに正確に共有でき、今後の生徒の進路について同じ方向へ向かえた大変よいカンファレンスとなった。

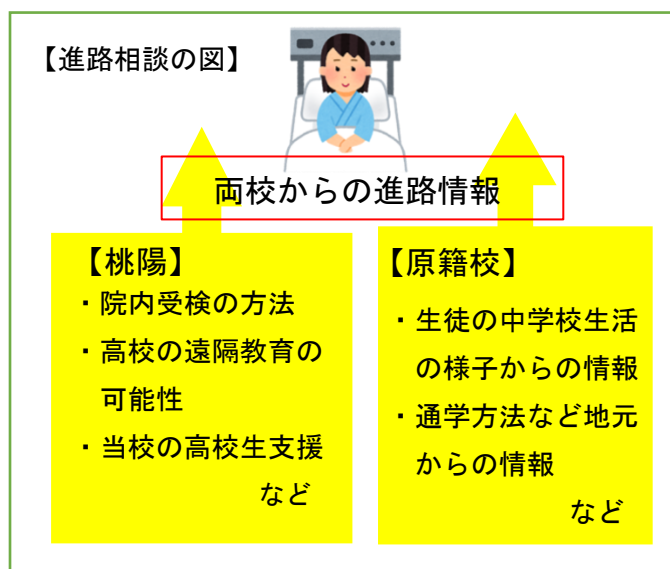


〈カンファレンスの様子〉

その後、原籍校からは、生徒の在籍中の様子を含めた進路選択の相談や地元ならではの情報を本人・保護者にいただいた。また、桃陽としては、病弱支援学校として院内受検や高校生学習会や高校の遠隔教育の可能性などの話をそれぞれが話をすることができた。

一時期は高校受検をどうしようか悩んでいたが、志望校を決定して受検する意思を持って学習を進めている。

【進路相談の図】

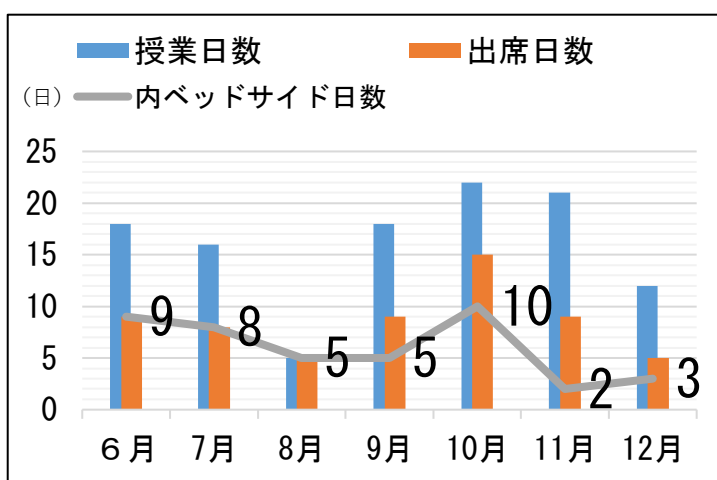


【報告書の気づきとエビデンス】

① 学習の継続に関すること

当校分教室の児童生徒は、個々の治療や体調により学習できる状況は様々である。本生徒の出席状況は、右のグラフに示す通りである。約5割の出席であり、そのうちベッドサイドでの学習がほとんどである。

学習できる体調であるが病室から出られない時の学習として授業動画配信サイトを紹介したが、全般的に体調の悪さがあり難しかった。



② 多様な集団作りに関すること

同年代の生徒との集団づくりについては、ICTを使って意識的に行っているが、実際に会って学習・交流できることは嬉しく、入院生活の支えとなる。

分教室への登校は本生徒だけでなく、他の入院生徒も同様に難しい。右の写真は桃陽の学校祭の後のレクリエーションで同じ中学3年生徒3名でビンゴゲームをしている様子である。実際に会ったのは、この1回だけであったが、「同じ市内の中学生がいるんだ。」と言って喜んでいた。



このように、同じように厳しい入院・治療生活を送っている同年代の仲間がいることは心強いのだろうと感じた。

③ 原籍校との連携に関すること

授業配信後のアンケート（3回）で、「ICT機器を活用した授業は分かりやすかったか」「ICT機器を活用した授業を活用したか」では4段階で最高の4をいつも選んでいた。また、感想では「気分転換になった」「元気をもらった」「明るい気持ちになれた」という言葉があり、厳しい治療の中でも学習や治療に対する意欲が

わいたと考えられる。

また、保護者も「しんどい事も忘れてとても楽しそうにしている姿を見られてとても嬉しい」と話してくれた。

友達と久しぶりに話すことができたり、顔を見ることができたりして楽しかったです。その場の雰囲気も楽しむことができて**気分転換**にもなりました。**元気をもらう**ことができてうれしかったです。



〈本生徒の感想から〉

治療などでしんどい事も多いですが、こういうことがあると、**しんどい事を忘れてとても楽しそうにしている姿を見られてとてもうれしいです。**



〈保護者の感想から〉

【1回目の授業配信のエピソードから】

配信の際は、いつも「顔は映っていいか」「声だけ届けたいか」などを前もって確認をとっている。初めての授業配信の際に、これらのことを尋ねると、本生徒は、「(顔は)今回は映らないでおく。」ということだった。配信が始まると、教室内のクラスメイトの声を聞き、「あ、〇〇の声や」「何を言ってるんやろう。」など言って笑顔があふれていた。教室で、担任の先生が本生徒が視聴していることをみんなに話すと、画面に本生徒が映っていないくても、カメラ越しに話す生徒もいた。

授業の最後の方に「何かメッセージがあるか」と、原籍校で配信していた桃陽の先生が話しかけてくれたので、本生徒に尋ねると「顔を映していいよ。」と言った。授業終了後であったが、本生徒はクラスのみんなに久しぶりに会った。「ひさしぶり」と笑顔で、みんなに話しかけていて、原籍校の生徒達も「わあ、〇〇」と言って寄ってきて話しかけてきた。

授業配信を受けて、自分のいつもの教室の雰囲気を感じることができたことで、「自分のクラスだ」という安心感が出てきて「顔を映して話をしたい。」という気持ちになったのではないかと考えられる。

【今後の見通し】

①学習の継続に関すること

- ・現在も厳しい治療中であるが、受検への希望を持っている。体調に合わせた学習方法について生徒と共に考えていきたい。
- ・生徒が学習しやすい環境（ICT活用も含む）を整えていく。
- ・引き続き動画配信サイトの活用も紹介し、体調に合わせて使用できるように考えていく。

②集団作りに関すること

- ・本校や分教室からの配信授業を体調に合わせて継続して行っていく。

③復学に向けた連携に関すること

- ・原籍校との連携のもと、相談し、体調に合わせて、授業配信などつなぎ支援を行っていく。
- ・高校受検（院内受検）や病院での高校生学習会・高校の遠隔教育など治療や体調に合わせた学習について医教連携をしながら進められるようにしていく。